

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北中道幼稚園

学校協議会

1 総括についての評価

本年度、幼稚園の自己評価結果は妥当である。『保護者アンケート』からも見て取れるが、各視点の年度目標に対する達成状況の自己評価と取組内容の達成状況においても、目標を上回って達成しており評価できる。引き続き、教育内容の充実と発信に努めていただきたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- ① 今年度のアンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- ② 今年度のアンケート調査で、「子どもは幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- ③ 今年度のアンケート調査で「子どもは教師や友達との関わりを楽しめていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- ①の項目について100% ②の項目について100% ③の項目について100%「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。月1回の避難訓練、年2回の保護者合同園児引き取り訓練を実施してきたことが子どものみならず保護者の防災意識を高めることにも繋がった。教職員間連携についても確認し合えることができた。また、コロナが5類に移行したことで異年齢交流活動(わくわくたいむ)の教育内容について工夫してきた。肯定的回答が高くなった要因と考える。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

- ① 本年度のアンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- ② 本年度のアンケート調査で「幼稚園は、子どもや保護者に対して基本的生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- ①の項目について100% ②の項目について100% 「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。『園長室だより』『クラスだより』など子どもの育ちをドキュメンテーション形式で発信したことや、健康生活に関しても、『ほけんだより』や保健指導を通して家庭に啓発してきたことなどを積み重ねてきた。肯定的回答が高くなった要因と言える。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

- ① 本年度のアンケート調査で「園内研修が充実していたと思うか(教職員アンケート)」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- ② 本年度のアンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- ①の項目について100% ②の項目について92% 「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。教員の資質向上に向けて、園内研究保育の場を設け、教職員が互いに見合い研鑽を積むことが大切であると考え。地域に向けての教育内容の発信についても、高齢者施設への訪問、和太鼓交流など地域の方々との連携を積み重ねてきた。肯定的回答が高くなった要因と言える。

3 今後の学校運営についての意見

- 5月、コロナが5類に移行したが、子どもたちが生まれ、少し大きくなり、やっと水族館や動物園にも行けると思った頃にコロナが流行し自宅で過ごすことを余儀なくされた。今、5歳児となり幼稚園教育活動の中で様々な人との関わりを大切にしたい。特に異年齢活動の『わくわくたいむ』では、自分より年下の友達をいたわり、優しい気持ちで関わっていることを先生方から伺い、嬉しく思う。これからも、異年齢活動については続けてほしいと願っている。
- 北中道幼稚園は地域とのつながりも深く、地域行事なども多いが、子育ては親だけでできるものではないと日々感じている。地域の方々や幼稚園の先生方と一緒に子どもたちを育てることが大切だと感じる。一人一人を大切にしていることとてもありがたい。
- 幼稚園で育まれた姿を小学校でも引き継いでいきたい。
- 特別支援教育に関しても支援方法をととても工夫されている。
- 高齢者施設との交流では、お年寄りの方々も昔、父親であったり、母親であったりという立場であられたこともあり、小さな子どもたちと触れ合うなかで「守る」という意識が高まり覚醒度が上がると言われている。引き続き交流をしていただきたい。